



木曾岬小学校だより



2023(令和5)年度 学校アンケートの結果を受けて その2

2024年3月12日

2023(令和5)年度 学校アンケート(児童)に続いて、保護者の方々からいただいたアンケート結果による成果や課題をお伝えするとともに、最後に学校運営協議会からいただいた学校関係者評価の概要についてもお知らせしたいと思います。つきましては、保護者の方々には、タブレットを活用したアンケートに慣れていただき、回答率も少しずつ上がってきていることをうれしく思います。

その2 保護者アンケートについて

回答率：90%【88】

肯定的な回答が80%以上… 【 】: 昨年度

- 1 学校は明確でわかりやすい教育方針を出している。83【94】
- 2 教育活動は、学校教育ビジョンに沿って運営されている。85【95】
- 3 学校はコミュニティ・スクールとして、保護者や地域と協働しながら子どもの育成に努めている。85【94】
- 4 学校は常に教育活動の改善に努めている。80【87】

- 6 学校は基礎的・基本的な知識を定着させる指導をしている。84【87】
- 7 学校は、情報化や国際化など、新しい教育に目を向けた取組をしている。85【81】
- 8 学校は、人権を大切に子どもを育てている。82【86】
- 9 学校は安全・安心の対策を整えている。80【89】
- 10 学校は日常的に情報発信(通信・ホームページ・家庭訪問・電話連絡・連絡帳等)している。80【87】

- 12 学校は、学習用タブレットなどのICT機器を活用した学習に取り組んでいる。92【96】
- 13 学校は、地域と関わりをもった学習(郷土学習)を進めている。94【89】
- 15 お子さんの体力は向上している。80【62】
- 16 お子さんは、家庭や地域でよく挨拶ができています。80【68】
- 19 お子さんは、学校生活に満足している。83【88】



家庭での取組の様子…

- 1 お子さんの毎日の食生活は大切であると考え、実践している。90【95】
- 5 お子さんから学校での出来事や将来についての話を聞き、自己肯定感を育んでいる。81【79】
- 6 お子さんの通学路の危険箇所(交通安全・不審者情報・倒壊の危険箇所等)をよく理解している。81【81】
- 7 学校からのお便り(学校・学年・学級・保健等)を読んでいる。91【93】

80%以上のアンケート結果をいただいた項目は14/20項目でした。概ね昨年度と同じ結果でした。80%以上の評価をいただいた中で、情報発信については、90%を超える評価をいただきました。

今年度も学校教育ビジョンに沿い、教育活動の工夫に努めてきたことを一定評価いただいたのでは…と思います。

「きめ細やかな学習指導」については80%を超える評価をいただいておりますが、児童の評価においては「分からないことがある場合、先生に聞いて解決している」については、昨年度80%を超えた評価でしたが、今年度は80%を切りました。この結果を踏まえ、今後の授業づくりの工夫・改善は必要であるという反省をしています。

次に、昨年度と比べてその割合が下がり、80%未満となった項目がいくつか見られました。体力向上、挨拶、学校生活への満足度です。こうした点についても、教育活動の改善に努めていく必要があると考えております。

保護者の方々の方々の状況(家庭教育等)について、こちらも昨年度とほぼ同様の結果でしたが、その割合は少しずつ高くなってきています。

学校からの通信については、よく読んでいただいていることには感謝しております。ホームページ等にお

いても、お知らせやスナップを掲載するようになりましたので、こちらもご利用ください。

次に、家庭でのお子さんとの関わりについて、「学校での出来事や将来について話を聞き、自己肯定感を育てている」の項目では、児童及び保護者のアンケート結果は、いずれも肯定的な回答が80%以上ありました。



ご家庭での談話はお子さんにとっても安心できるよい時間かと考えます。肯定的な回答の割合がより向上していけば…と思います。

その一方で、児童アンケート「自分によいところがある」と肯定的に捉えている子どもの割合は約60%で横ばいです（その1参照）。次年度も一人ひとりの自尊感情を育む取組に注力していく必要があるかと考えます。自己肯定感を持って何事にも意欲的に取り組むことができるような姿勢（生き方）を育むには、学校生活だけでなく、保護者の方々とも共有していくことが大事になってくるものと考えます。

「夢や目標に向かって頑張る木曾岬っ子応援キャンペーン」を一つの取組事例としていければ…とおみますので、次年度で3年目となりますが、協働した取組をよろしく願いいたします。

肯定的な回答が70%未満…

17 お子さんは、以前に比べて家庭学習をよくするようになった。57【62】

18 お子さんは、以前に比べて読書をするようになった。51【55】



学校・家庭・地域との協働について…

4『子育て8つの指針』を自分の子育ての参考にしたことがある。54【55】

次に、回答が70%未満となった項目についても、ほぼ昨年度と同様でした。しかしながら、その割合は昨年度に比べて下がり、一昨年度並みとなりました。ほぼ横ばいということです。

家庭学習や家庭での読書につきましては、急激な変化を示すような項目ではありません。家庭学習では課題の出し方やICTの活用の工夫等に努めるとともに、読書につきましては、読み聞かせ、選書の工夫・充実等、今年度の取組を粘り強く継続していくことで向上に繋げていきたいと思っております。ただ、項目として「以前と比べて」とあり、ある程度または十分に実践している場合にも、さらにという捉え方をすることから、この割合を高めていくことより、十分にまたはある程度という表現でのアンケートに変更して数値を確認していくべきではないかとも考えられます。次年度末のアンケートに向けて検討をしていきたいと思っております。

『子育て8つの指針』については、毎月の各学年だよりでお知らせしています。さらに、今年度は、ホームページに掲載し、いつでも参考にさせていただけるようにしています。

各ご家庭の子育て観と大きく関わることから、実際の生活でどのように生かしていくのかが見えにくいということかな…と思われまます。

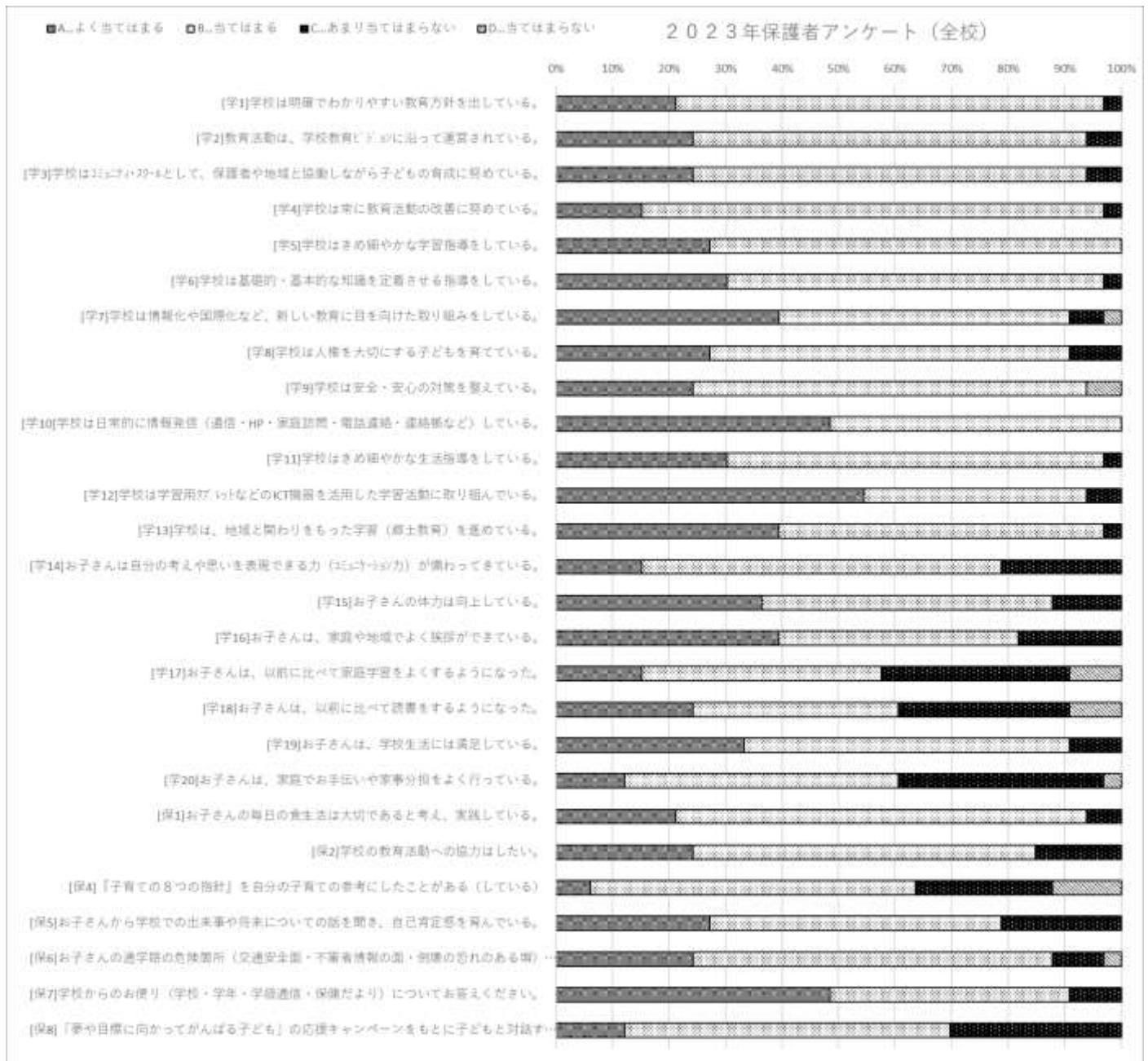
健やかな成長を支えていく意味で子育てのポイントとなる内容であると考えています。今後も、必要に応じて、ホームページを見て参考にさせていただければ…、また、学年通信で時節に応じ工夫して発信していきますので、ぜひ参考にさせていただければ…と思っております。

お手伝い等は、ご家庭の理解や協力も得て取り組んでいく項目となります。こちらにつきましても、保護者の方々との協働して取り組んでいければ…と考えております。

協働で支えていくという点で、アンケートでは「学校の教育活動への協力」について、昨年度よりは高くなりました。協力できる内容についても多くのご意見をいただきました。

その内容は、通学路の見守り、教育活動のサポート（調理、ミシン、読み聞かせ等）、草取り、行事やクラブ活動へのサポート、子どもの話の聞き役などでした。様々な支援のご意見をいただきました。ありがとうございます。

そして、具体的な記述につきましては、既に、担任等からお応えさせていただいたもの、次年度の行事計画に反映させていただいたものがございます。次年度の教育活動の充実に向けて、今後も、いただいたご意見を生かしていきたいと思っております。さらに、学校からの発信の工夫に努めていきたいと思っておりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



学校運営協議会より

今年度の学校評価アンケート結果を踏まえ、また、2023（令和5）年度の教育活動の様子について、学校運営協議会で協議し、学校関係者評価をまとめていただきましたので、その概要についてもお伝えさせていただきます。



学校経営につきましては、「学校づくりビジョン」で保護者にめざす方向を明示し説明を行っていること、児童の様子を学校全体で共有していること等について評価していただきました。

今年度5月より、様々な教育活動を基本的には制限を掛けない中で、より充実した内容となるように取組の工夫に努めてきています。運動会（半日ではありましたが、全学年参加での開催・参観の制限も行わない）、集会行事、授業参観や学校公開、芸術鑑賞会などの教育活動の実施への評価をいただきました。

さらに、昨年度から取り組み始めた「夢に向かって頑張る木曾岬っ子応援キャンペーン」の取組について、学校だよりや町広報誌などで積極的に発信して家庭と共有を図っている点についても評価をいただきました。引き続き、より丁寧な学級経営・学校運営に取り組んでいきたいと思っております。

学習面では、引き続き、郷土教育・ICT教育・英語教育に取り組んでいることに加えて、学びの土台作りということで、コグトレ（オンライン）の導入、読書活動の推進（読み聞かせ：絵本から文字の本へ）といった取組に着手し、落ち着いた学習状況となるように工夫・改善に努めてきていること、必要に応じて専門機関との連携も進めていることなど、課題に沿った手立てを企画して取り組んでいることに評価をいただきました。



特に、読書活動の推進につきましては、委員の方々と講師の方との意



見交流の場も持ちながら、取組の方向性をご理解いただきましたが、学校評価アンケートでの割合は決して伸びてはいません。学習の土台となる活動ですので、今後も粘り強く実践を積み、ゲーム時間が家庭学習や読書の時間に変わっていくようにしていきたいと思えます。

この一年間、特に5月の新型コロナウイルス感染症の制約緩和以降、授業を中心とした教育活動に様々な工夫をしながら、学校運営に取り組んできたことについては、大変評価をいただきました。

しかしながら、まだまだ課題はあります。保護者アンケートの自由記述欄に書かれた内容について、対応できたこと、できないこと、認識の相違によるもの、改善を重ねていくものなどがあるので、対話を重ねてよりよい方向で取り組んでいくことを期待していただいています。

また、携帯電話やインターネットの問題に関しては、学校のみ取組ではなく、関係機関と連携して進めていくことが肝要とご助言をいただきました。

また、国際化・多文化共生の時代となり、様々な言語圏出身の方々が本校に編入してきています。言葉や文化の違いがあり、それらを理解し合った学校生活となるように努めてきています。



今後も、日本語指導が必要な場面が多くなりつつあることへの対応について取組の充実が望まれるのではないかとご指摘もいただきました。

今年度は、外国につながる児童の声を聴く機会を持つことができました。今後、町の施策とも連携して、木曾岬町に住む外国につながるの方々にとっても住みやすい町となるように、言葉の学習やなかまづくりに取り組んでいきたいと思えます。

さらに、児童を取り巻く環境は多様化、複雑化していることを踏まえて、児童や保護者をサポートしていく体制の整備について十分に検討を図っていくこともご指摘いただきましたので、校内体制のみならず、教育委員会とも連携し、保護者の方々とともにお子さんを育てていければ…と思えます。



その他、校内の備品につきましても、その耐用年数を大幅に超えてきている物につきましては、長寿命化対策とも関連しますが、児童の安全・安心を第一に考えて、教育委員会とも連携しその整備に努めていきたいと考えています。状況によっては、PTA活動の支援をお願いさせていただくこともあろうかと思えますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたしたいと思えます。

以上、学校評価の結果と合わせまして、次年度の学校運営の改善・充実のポイントとなる貴重なご意見をまとめていただきました。学校運営協議会委員の方々におかれましては、一年間、ありがとうございました。

—以下余白—

